

事例

地域力を生かしながら体験的に学ぶ食育 ～みかん狩り～

静岡県静岡市立由比こども園

由比こども園は、静岡市の最東端に位置し、前面に駿河湾、背面には浜石岳があり、海の幸、山の幸にあふれ、豊かな自然に囲まれています。その豊かな自然での体験や地域の方たちとの温かな関わりの中で、子供の生活や食、遊び、学びがより豊かとなり、さらには子供たちの心に地域の自然への関心が深まり郷土愛が育まれています。



夏みかん狩りの様子

由比地区では、温暖な山の斜面で酸味と甘味がちょうど良いみかんが作られ、地場産業の一つとなっています。地域の方にお借りしている畑で、毎年初夏になると夏みかん狩りをしています。自分で収穫し、五感を使い香りや味など、夏みかんを堪能します。保育教諭が収穫したての夏みかんをむくと、いい香りに誘われ、自然に子供たちが集まってきます。家庭では、皮をむいてもらったみかんを食べる子供も多いのですが、3年間、夏みかん狩りをした年長児になると、皮も自分たちでむくようになり、年少児や年中児にも教えてあげるなど、自信がつき、だんだんたくましくなってきます。

園に戻ると、夏みかんジュースにしたり、夏みかんを凍らせアイスにしたりなど工夫して、夏の暑い時期にいろいろな形でおいしく食べます。家庭へもお土産に持ち帰り、親子でゼリーやマーマレードを作って食べました、という嬉しい声も聞かれ、園と家庭や地域がつながっていることが感じられます。また、夏みかんを味わうだけでなく、絵を描いたり色水でみかんジュースを作ったり、さらには子供たちから「ありがとうしたいね」との声が上がって畑を提供した方にお礼の手紙を描いたりするなど、その後の遊びに発展しました。経験だけで終わるのではなく、自分たちの遊びに取り入れ、体験的な学びにもつながっています。



色水でみかんジュース作り



ばくのみかん



お礼の手紙

秋には地域の方の協力を得て、青島みかんのみかん狩りをしました。平成30（2018）年は、いのししに食べられてしまいできなかったのですが、令和元（2019）年はたくさんのみかんの中から「これにしようかな。こっちも甘そうだな」と真剣に選んで収穫する子供、「先生、丸い形より平らなみかんの方がおいしいんだって」と地域の方から教わったおいしいみかんの選び方を保育教諭にそっと知らせにくる子供等、自分なりのこだわりを持っての収穫となりました。「いのししから守るから、また来てください」との地域の方からの声掛けに、子供たちは「やったー！」と大喜びでした。地域の方の話を聞き、園で育てたサツマイモがいのししに食べられたことを思い出し、いのししが食べにくる理由等への関心も高まっていました。

今後も、由比地区の自然と地域の方たちとの触れ合いを保育に生かし、子供たちの五感を働かせる体験を通して、生活と遊び、食へのつながりをより豊かなものとするよう工夫し取り組んでいきたいと思っています。

第2章

学校、保育所等における食育の推進